

シリーズⅠ（3講） 『戦後80年』

シリーズⅡ（3講） 『大谷吉継 生誕460年』

昭和60（1985）年に開講以来、体系的な年間テーマのもとに、歴史を学ぶ楽しさを市民と共有しながら、連年開催されてきた「敦賀市民歴史講座」。今期（第41期）は、二つのシリーズテーマ（各3講ずつ）による全6講を企画。一つは、日本海側で最初の「敦賀空襲」と、「太平洋戦争」終結80年に因む『戦後80年』シリーズです。

いま一つは、近世・近代における敦賀のまち形成の礎を築いたとされる最後の敦賀城主・大谷吉継にまつわる『大谷吉継生誕460年』シリーズです。これら二つのテーマは、その時代と歴史的背景は大きく異なりますが、それぞれの分野における多彩な講師陣により展開される歴史ストーリーにご期待下さい。

広く一般に開かれた市民のための座学ですので、お気軽に多くのご来聴をお待ちしています。

シリーズテーマⅠ（3講） 『戦後80年』	各講の ・日時 ・会場 ・演題 ・講師	シリーズテーマⅡ（3講） 『大谷吉継 生誕460年』
・7/5（土）13:30～16:00 ・プラザ萬象 小ホール ◎『敦賀空襲を伝え つなぐ』 ・基調講演 ・トークセッション ・パネルディスカッション	7月	
・8/30（土）14:00～16:00 ・敦賀市立図書館3階 ◎『私が出会った三人の昭和の偉人たち』 ・山登 義明氏（元NHKプロデューサー）	8月	・8/10（日）13:30～17:00 ・敦賀市民文化センター ◎『大谷吉継サミット2025』 ・研究報告 ・パネルディスカッション
 空襲により焼け野原となった敦賀市街地	9月	・9/13（土）14:00～16:00 ・敦賀市立図書館3階 ◎『語り継がれる大谷吉継』 ・外岡 慎一郎氏（元奈良大学教授）
	10月	・10/5（日） ◎フィールドワーク『関ヶ原古戦場をめぐる』 （行程など細部は後日発表）
・11/8（土）14:00～16:00 ・きらめきみなと館 小ホール ◎『昭和100年 世界の中の日本、そして敦賀』 ・小倉 和夫氏（元駐韓・駐仏大使）	11月	 関ヶ原合戦図屏風に描かれた大谷吉継

【会場】 各講ごとに異なる場合がありますので、お間違い無いよう確認ください。
 【開始時刻】
 【主催】 気比史学会／お問い合わせは、《事務局》山本 武志（Tel: 090-9766-7645）まで
 7/5、11/8は敦賀市、8/10、10/5は敦賀市立博物館との共催事業

※2PにテーマⅠ『戦後80年』シリーズの詳細を掲載

※3PにテーマⅡ『大谷吉継生誕460年』シリーズの詳細を掲載

シリーズテーマⅠ 『戦後80年』(全3講)

それは、日本海側で最初の空襲であり、敦賀の歴史上、未曾有の惨禍であった。そして、アジア・太平洋戦争終結。・・・あれから80年。

国民の大半が戦争を知らない世代となって久しいが、過去と現在、未来は地続きであり、検証を怠れば同じ惨禍が繰り返される。

時空を超えて、空襲の実相と戦後の歩みを記憶・継承することに努め、内外ともに重要な局面にある今こそ、改めて平和の意義と人間の尊厳を希求する機会にしたいものです。

7月5日(土)13:30~16:00 プラザ萬象 小ホール

『敦賀空襲を伝え つなぐ』

● 基調講演

「敦賀空襲の概要」 元県立敦賀高等学校教諭 木戸 聡氏

● トークセッション

(1) 証言「敦賀空襲」 高崎 三蔵氏

(2) 朗読『花の氷柱 ～いくさと青春～』(故 真田正子氏著) より 人村 朱美氏(舞台俳優)

● パネルディスカッション 『敦賀空襲を伝え つなぐ』

<パネラー>

田代 章子氏(敦賀女性史の会代表)、桃井 泰人氏(日照山本勝寺住職)

奥野 治樹氏(嶺南地区遺族連合会会長)、木戸 聡氏、高崎 三蔵氏

人村 朱美氏、梶谷 好晃(気比史学会 会長)

<司会> 高早 恵美(敦賀市立博物館副館長)

8月30日(土)14:00~16:00 敦賀市立図書館3F

『私が出会った三人の昭和の偉人たち』

山登 義明氏(元 NHK プロデューサー)

1948年敦賀市生まれ。敦賀高校卒、金沢大学卒業後、1970年NHK入社。テレビディレクター、プロデューサーとしてヒロシマ・ナガサキに関わるドキュメンタリーをはじめ、ジャンルを超えた社会派番組も数多く制作。

三人とは、河合隼雄(臨床心理学者、文化庁長官)、大江健三郎(作家、ノーベル文学賞受賞者)、向田邦子(作家、脚本家)。三氏とも昭和ヒトケタ世代で、戦後の日本文化の土台を築いた人たちであり、敦賀との繋がりもある。講演では、三人の生き方を見つめ、なぜ偉大なのかということを考える。

また、山登氏がロケする中で見せた各人の素顔のエピソードなどを映像も交えて面白く伝え、最後に、三人の死についても触れられよう。

11月8日(土)14:00~16:00 きらめきみなと館 小ホール

『昭和100年 世界の中の日本、そして敦賀』

小倉 和夫氏(元駐韓・駐仏大使)

1938年東京都生まれ。東京大学法学部、英国ケンブリッジ大学卒。外務省外務審議官、駐韓国、駐フランス大使など歴任。国際交流基金理事長などを経て、現在は同顧問、日本財団パラスポーツサポートセンターパラリンピック研究会代表。著書として『外交秘録ー表と脇と裏舞台ー』など多数。氏の祖父は、敦賀ゆかりの方である。

シリーズテーマⅡ 『大谷吉継 生誕460年』(全3講)

慶長5年9月15日「天下分け目」の「関ヶ原合戦」。「忠義と友情」に殉じた武将として揺るぎない評価を得てきた大谷吉継。吉継は最後の敦賀城主でもあった。その人となり、生涯など霧につつまれた等身大の姿を描き出すことによって、大谷吉継研究の現時点における到達点に迫るシリーズです。

8月10日(日)13:30~17:00 敦賀市民文化センター

『大谷吉継サミット 2025』

大谷吉継生誕460周年を記念して、吉継研究のトップランナーによる敦賀市立博物館主催のシンポジウムに協力。

<研究報告の部>

- ① 「豊臣政権の奉行としての大谷吉継」
石畑匡基氏(大手前大学講師)
- ② 「大谷吉継の関ヶ原」
北村太智(敦賀市立博物館学芸員)
- ③ 「総論 大谷吉継という人物」
外岡慎一郎氏(元奈良大学教授)

<パネルディスカッションの部>

テーマ「大谷吉継研究の最前線」
吉継研究の現状や、敦賀での吉継の位置付け、今後の研究の展望等を議論。

登壇者

外岡氏、石畑氏、杉原正英(気比史学会副会長)
司会：北村

9月13日(土)14:00~16:00 敦賀市立図書館3F

『語り継がれる大谷吉継』

外岡 慎一郎氏(元奈良大学教授)

吉継と所縁深い敦賀の地で吉継研究ができる幸運をかみしめながら、その後の研究を深めていった外岡氏。それは、書状の言葉を聴き、その現場、その時、その人に寄り添いながら歴史の転換点を見つめる作業の連続だったと思われます。

ここ敦賀における20回を超えた連続講演「吉継カフェ」などで蓄積してきた研究成果に基づき、8/10の“吉継サミット”の総括的意味合いも含めて、これからの方向性も吐露いただければと・・・期待しています(編集子)。

10月5日(日)

フィールドワーク『関ヶ原古戦場へ～大谷吉継軍陣地を中心に』

関ヶ原古戦場記念館を拠点として、「吉継コース」を基本にしたトレッキングコースを巡ります。

※行程・参加費・申し込みなど詳細は 後日発表します



関ヶ原合戦図屏風(敦賀市立博物館 収蔵品データベースより引用)

気比史学会 入会のおすすめ

～当会では、随時会員を募集しています～

古来、歴史が豊かに紡がれ織りなされてきたこの地・敦賀。その悠久の歴史や民俗などに興味をお持ちの方！当会での学びや活動に参加して、史楽の世界をご一緒しませんか！！

☆気比史学会の主な活動＜創立 1977（昭和 52）年＞

1. 「敦賀市民歴史講座」を主催。これまで41期延べ全267講を数え、地域史などを学ぶ醍醐味を市民と共有しています。
2. 「史庭庭」の開催
オーラルヒストリー「語る（語られる）歴史」の場として、地域社会の様々な史実を語り合っています。いまは、「愛発学」をテーマ毎に学んでいます。
□毎月第2木曜日 13時30分～／市立図書館3F 読書室
3. 「ミニ歴史講座」の開催
敦賀の歴史を、より広く市民に知って頂くための分かりやすいミニ解説。
□敦賀駅前 知育・啓発施設「ちえなみき」2Fのオープンスペースで、毎月1回（開催日時は、ちえなみきのホームページ or 気比史学会 SNS アカウントなどにてお知らせ）
4. 歴史探訪（フィールドワーク）などの実施
5. 刊行活動（「気比史学会だより」や講座記録集など）
6. 「気比文庫」（当会所蔵の図書、文献、記録テープ等）の開放

以上、会員はすべて無料で利・活用できます。

年会費

- ◇ 一般会員 6,000円
- ◇ 賛助会員 10,000円
(個人・法人を問わず)

※入会の資格など何ともありません。
老若男女どなたでも、いつでも入会をお待ちしています。

気比史学会事務局

敦賀市東洋町1-1 プラザ萬象団体室4

※連絡先（事務局長・山本武志）

〒914-0137

敦賀市ひばりヶ丘町1028番地

(電話) 090-9766-7645

気比史学会

ー過去に学び 未来に期待し 今日に生きるー